

令和4年度  
(2022年度)

## 上下水道局の取り組み実績

### <局の方針・考え方>

水道・下水道事業を持続的・安定的に取り組んでいくため、公営企業として独立採算の原則を念頭においた戦略的な経営の推進と水道ビジョン2022・下水道ビジョン2022に掲げる以下の基本理念を実現し、また、水道法改正による水道の基盤強化や下水道法改正による浸水対策の強化、SDGsの達成など社会情勢の変化に局一体となって迅速に対応できる執行体制を整備します。

#### 【基本理念】

- 未来につなぐ 枚方の水道
- 未来につなぐ 枚方の下水道

### 重点的な取り組み：適正な予算編成と執行管理

新型コロナウイルス感染症の影響下においても、将来にわたって安定的に水道・下水道サービスを提供できるよう、経営基盤の強化や財政マネジメントの向上を図る必要があります。このことから、上下水道局が一体となり、将来世代に負担を先送りしないよう、計画的な事業執行と長期的視野をもった財政運営を行います。

<b>実績</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>① 維持管理等の経常的経費の削減</li><li>② 採算性を重視した事業決定</li><li>③ 新たな財源の活用による事業の早期実施</li></ul>
<b>説明</b>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響や、円安や紛争を要因とするエネルギー価格高騰による動力費を始めとした経費の増加など、今後もその情勢が見通せない中、事業の必要性等を十分に検討するとともに、継続事業についてもそのあり方を見直しました。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>① 近い将来に更新予定の施設の修繕については、更新までの間の機能維持に必要な最低限の修繕にとどめることとしたほか、継続事業についても事業の実施手法の見直しを図るとともに、既存施設能力の有効活用や、大阪広域水道企業団からの受水量の減量に取り組み、受水費を削減しました。</li><li>② 新規整備事業の決定にあたっては、事業の目的や効果、優先順位に加えて、事業実施による収支への影響を十分に精査し、事業決定を行いました。</li><li>③ 国の制度を活用することで財源を確保し、雨水事業において、一般財源による負担を削減しながら、事業の早期実施を図りました。</li></ul>

### 重点的な取り組み：雨水整備事業・浸水対策

近年の計画降雨を上回る集中豪雨対策として、下水道浸水被害軽減総合計画に基づき、楠葉排水区において引き続き雨水貯留施設等の整備を進めます。また、浸水頻度の高い地域の被害軽減に向けた工事や設計業務に取り組みます。

<シールドマシン到達>



<推進工準備中>



<b>実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 雨水貯留管とポンプ設備の完成</li> <li>② 雨水整備事業の実施</li> </ul>
<b>説明</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 雨水貯留施設の整備において、雨水貯留管整備工事と貯留した雨水を排水するポンプ設備工事は完成しました。また、雨水流入管整備工事においては、貯留管へ雨水を導く流入管の布設工事が完成し、雨水を取水する施設が完成した地域から順次供用を開始しました。</li> <li>② 浸水被害の軽減に向け、楠葉野田地区等 2 地区の雨水管整備工事を実施しました。また、効率的・効果的な浸水対策に取り組むため藤阪元町地区の実施設計に取り組みました。</li> </ul>

### 重点的な取り組み： 中宮浄水場更新事業

安全・安心で持続可能な水道の供給を実現するために、令和9年度（2027年度）からの本格稼働を目指し、新たな中宮浄水場の詳細設計に取り組みます。



[ 完成予定図（イメージのため今後の進捗に伴い変更が生じる場合があります。） ]

<p><b>実績</b></p>	<p>① DBO方式を用いた事業手法により、設計業務及び工事を実施。</p>
<p><b>説明</b></p>	<p>① 事業者と運転や維持管理などの観点から協議を行い、膜ろ過棟などの各施設の設計を進めるとともに、設計が完成した部分から工事に着手しています。今後も順次各施設の整備に着手し、令和9年4月の新浄水場からの通水を目指します。</p>

**重点的な取り組み：下水道施設の老朽化対策・地震対策**

市民生活の安全確保を図り、老朽化対策などに取り組むため、下水道整備基本計画や予防保全型を重視した計画的な下水道施設の改築及び耐震化を定めた下水道ストックマネジメント計画を着実に推進し、維持管理に係るライフサイクルコストの最小化を図ります。

「管路施設」については改築計画の作成、改築工事及び楠葉処理分区において管路施設の耐震化工事に取り組みます。

また、「ポンプ施設」については蹠躰ポンプ場機械設備の改築工事、出口汚水中継ポンプ場受変電設備等の更新工事に向けた実施設計業務に取り組みます。加えて、耐震性能の確保に向けて北部ポンプ場で工事を行い、溝谷川・安居川ポンプ場では実施設計業務を行います。藤本川・黒田川・蹠躰ポンプ場では耐震診断業務を実施します。

管渠等の老朽化や誤接続により汚水管渠に雨水等が浸入する「雨天時浸入水」の対策については、楠葉処理分区において流量調査を実施するとともに、令和3年度（2021年度）に実施した送煙調査の結果に基づき、発生源対策の検討を行います。また、汚水マンホール等からの溢水対策として既設管渠の管内貯留化工事を行います。

<蹠躰ポンプ場内部>



<北部ポンプ場外観>



<p><b>実績</b></p>	<p><b>【汚水整備課】</b>          ① 管路施設の老朽化対策          &lt;改築工事1件、実施設計1件、調査委託9件&gt;          ② 雨天時浸入水の対策          &lt;貯留化工事1件、流量調査1件&gt;</p>
------------------	--

	<p>【雨水整備課】</p> <p>① ポンプ場機械設備改築        &lt;改築工事 1 件&gt;</p> <p>② ポンプ場耐震化        &lt;耐震化工事 1 件、耐震化実施設計 2 件、耐震診断調査 3 件&gt;</p>
<p>説 明</p>	<p>【汚水整備課】</p> <p>① 楠葉朝日 3 丁目地区で管路施設の老朽化対策として改築工事を実施しました。茄子作北町地区で改築工事を行うための実施設計を完了しました。また、下水道管路施設の調査委託を実施しました。令和 5 年度は、引き続き調査及び改築工事を進めていきます。</p> <p>② 雨天時浸入水が多い楠葉地区において、特に浸入水が多い箇所を絞り込みを行うための流量調査を実施しました。また、終末処理場への過大な負担を軽減させる目的で、既設汚水管渠の中部汚水幹線において、管内に一時貯留するための工事を実施しました。</p> <p>【雨水整備課】</p> <p>① 蹉跎ポンプ場 2 号ポンプにおいて、分解・点検し、ポンプ・エンジン・減速機の消耗品の交換を実施しました。</p> <p>② 北部ポンプ場において、一部の窓を耐力壁に変更するなどの耐震化工事を実施しました。また、耐震診断結果に基づき、溝谷川・安居川ポンプ場の耐震化工事に向けた実施設計に取り組むとともに、耐震性能の有無を確認するため藤本川・黒田川・蹉跎ポンプ場の耐震診断調査を実施しました。</p>

**重点的な取り組み：水道施設等の更新・耐震化事業**

枚方市水道施設整備基本計画に基づき、引き続き津田低区配水場の既設 1、2 号池の耐震工事を進めるとともに、田口山配水場ポンプ棟の耐震補強設計に取り組めます。

水道管路については、送水管・配水本管・配水支管の更新及び耐震化を効率的・効果的に進めます。

<p>実 績</p>	<p>① 津田低区配水場 1 号池の耐震補強工事が 8 月に完了。        &lt;枚方市配水池耐震化率：59.6%⇒65.4%に向上&gt;</p> <p>② 津田低区配水場 2 号池の耐震補強工事や田口山配水場ポンプ棟の耐震補強設計への取り組み。</p> <p>③ 水道管路の更新による耐震化。        &lt;耐震性能を有する水道管路の割合 28.5%&gt;</p>
<p>説 明</p>	<p>水道水を安定的に供給するため、「水道施設整備基本計画」に基づき、水道施設・管路の更新及び耐震化に取り組んでいます。</p> <p>① 津田低区配水場 1 号池の耐震補強工事については、8 月に完成し、安定的な</p>



	<p>給水を行うことができました。</p> <p>② 津田低区配水場2号池の耐震補強工事と防食塗装工事に着手しました。計画どおり令和5年6月の完成を目指し、引き続き、工事を進めます。田口山配水場ポンプ棟の耐震化を図るため、設計業務に取り組みました。</p> <p>③ 水道管路については、送水管・配水本管・配水支管の更新及び耐震化に取り組みました。引き続き、「枚方市水道施設整備基本計画」に基づき、管路の更新・耐震化を行い、安定した水道水の供給に取り組んでいきます。</p>
--	---

### 重点的な取り組み：下水道マンホール蓋（ふた）の有効活用

現在導入している下水道マンホール蓋の広告について、新たな設置箇所を検討のうえ、8ヶ所を増設予定であり、今後も引き続き設置箇所の検討を行っていきます。

また、経年劣化などの理由で取り換えたマンホール蓋は、金属の売り払いで処分していますが、近年のマンホール人気から使用できなくなったマンホール蓋の販売を実施します。これらの取り組みにより、下水道事業のPRとマンホール蓋の広告収入及びマンホール蓋の販売収入による新たな財源の確保を図ります。

<b>実績</b>	<p>① マンホール広告の有料広告 継続契約5ヶ所&lt;令和2年4月1日～令和7年3月31日&gt; 引き続き8ヶ所募集</p> <p>② 使用済みマンホール蓋の販売 他市の事例を収集、実施の検討</p>
<b>説明</b>	<p>① 令和2年度から5ヶ所にマンホール蓋広告の設置を継続しています。 また、応募がなかった8ヶ所については、以前に相談があった事業者へ声掛けなど新規事業者獲得に向けて募集を行いました。</p> <p>② 使用済みマンホール蓋の販売については、販売を実施している他市の事例を参考に販売価格を設定し、募集方法について検討を行いました。</p>

### 重点的な取り組み：危機事象への対策

生活に不可欠な水道水の供給と下水道による快適な生活環境の確保を持続するため、発生が予想されている大地震や風水害等の危機事象への備えとして緊急出動班の体制整備やマニュアルの作成、給水訓練等に職員一丸となって取り組んでいます。

令和3年度（2021年度）に和歌山市で発生した水管橋崩落事故の早期復旧のため、8日間にわたり職員を派遣しました。派遣後は、この事故で得たさまざまな教訓を踏まえた災害対応訓練を実施しており、今後もより実践的な訓練の実施など、施設の老朽化に伴う漏水などの危機事象への備えにも取り組めます。



(和歌山市水管橋崩落事故の様子)



(和歌山市での給水活動の様子)

<p><b>実績</b></p>	<p>① 感染症対策に留意した給水訓練等の実施。 ② 各種イベントにおける啓発活動。</p>
<p><b>説明</b></p>	<p>① 新型コロナウイルス感染症に関する対応例や新型インフルエンザ等の感染症が絡んだ「複合災害」時における給水活動などを適正かつ迅速に対応するため、危機管理マニュアルの掲載内容を再確認するとともに、マスクの装着や手指消毒を徹底の上、給水訓練等を実施しました。 ② 各種イベントに参加し、防災に関する啓発活動や上下水道局の取り組みの情報発信を行いました。</p>

### 重点的な取り組み：オンライン化の推進

市全体として市民・事業者の利便性向上や非接触型行政サービスの提供等を目的とし、所管手続のオンライン化が推進されている中、上下水道局において現在紙媒体やメール等で受付している各種申請や事務手続き等について、LoGo フォームの積極的な活用や先進的にオンライン化を実施している他市等の事例や手法などを参考としながら、オンライン化の実現に向けた課題解決の検証等を行い、上下水道局としてオンライン化の推進を図ります。

<p><b>実績</b></p>	<p>① 指定給水装置工事事業者及び排水設備指定工事店の申請について、オンライン化するための LoGo フォームを整備。</p>
<p><b>説明</b></p>	<p>① 職員の事務負担の軽減及び、申請者の利便性向上を図るため、令和5年度からのオンライン申請の運用開始に向けた準備を行いました。</p>

## 重点的な取り組み：人材育成

水道・下水道事業が、お客さまの信頼の上に成り立っており、24 時間 365 日公務員であることを全職員が認識し、服務規律の確保を徹底していくため、人権尊重を含めたコンプライアンスの浸透・定着に向けた取り組みを継続的に行ってまいります。

また、水道・下水道事業ともに、高度な専門技術の習得が必要なため、外部研修への参加を促進するとともに、必要な技術が継承されるよう OJT の推進を図ります。併せて、有益な人材育成研修は、各職場だけでなく上下水道局全体においても積極的に実施します。

<b>実績</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>① 職場内研修の実施。</li><li>② 上下水道局新入職員等研修会の実施。</li></ul>
<b>説明</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>① 専門性の高い高度な技術の習得及び経験豊富な職員から次世代を担う職員へ技術の継承を行うため、継続的に OJT を実施し、職務に関する知識や技術の向上を図りました。</li><li>② 上下水道局へ異動してきた職員及び新規採用職員を対象に、上下水道局各課の業務を説明する研修を実施し、水道・下水道事業の取り組みについて習得する機会を設け、職員の資質の向上に取り組みました。</li></ul>

## 重点的な取り組み：広報・情報発信

水道・下水道の取り組みを積極的に PR するため、情報誌「Water 通信」の発行、ホームページや SNS の活用のほか、出前講座など様々な機会を通じて、引き続き広く情報発信していきます。

<b>実績</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>① 情報誌「Water 通信」の発行。 ＜発行部数 5,000 部＞</li><li>② 「水道・下水道ガイド」の配布。</li><li>③ 「広報ひらかた」・ホームページ等の媒体を通じた発信。</li><li>④ 出前講座の実施。(2回)</li></ul>
<b>説明</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>① 情報誌「Water 通信」を発行し、上下水道局の取り組みをわかりやすく発信しました。</li><li>② 市内転入者に向けて、水道・下水道事業の取り組みの紹介や業務窓口等を案内するため配布しました。</li><li>③ 水道・下水道事業の取り組みを広く発信するため、ホームページ、SNS など各種媒体を通じて広報を行いました。</li><li>④ 新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン等に基づき、オンライン開催を含めた適切な感染防止対策のうえ、出前講座を実施し、水道・下水道事業の取り組みなどについて説明しました。</li></ul>